

ジオカタログの作成

TNTmips のジオカタログ機能では、何十万ものプロジェクトファイルや他の直接使用をサポートしている地図、画像データファイル (例えば、*.tif、*.jp2、*.shp) から、地理的な位置によってデータを選択することができます。地理データを地理領域によって選択できるようにするためには、あなたの検索条件を満たす地理データが迅速に特定できるように、地理データオブジェクトやファイルの範囲や他の情報を含むジオカタログを作成しなければなりません。

<ジオカタログ (Geospatial Catalogs) > ウィンドウを使って、地理空間カタログ、略してジオカタログを作成・編集します (TNTmips のメニューから、[ツール (Tool)] > [ジオカタログマネージャ (Geospatial Catalog Manager)] を選択します)。カタログマネージャは、ユーザが指定する全てのローカルディスクやネットワークを検索し、そこにある全地理データレイヤのプロパティに関して、TNT 製品で使用できるデータベーステーブルを構築します。TNT 処理の<オブジェクトの選択>ダイアログでは、ディレクトリをナビゲートして、オブジェクトを選択する場合と同様、これらのジオカタログを使って迅速に地理データオブジェクトを検索、選択できます。ジオカタログでは、コンピュータやネットワーク上の場所というよりも、地球上の位置もしくはファイルやオブジェクトの名前または説明の中に含まれるテキストで地理データレイヤを選択できます。ジオカタログからオブジェクトを選択する詳しい方法については、テクニカルガイドの「システム: ジオカタログの使用 (System: Using Geospatial Catalogs)」をご覧ください。

ジオカタログの選択

既存のジオカタログの編集、更新あるいはジオカタログの新規作成には、<ジオカタログ>ウィンドウの上端にある [ジオカタログの選択 (Select geospatial catalog)] ボタンをクリックしてください。<ファイルの選択 (Select File) > ウィンドウの上端近くにある [新規ファイル (New File)] ボタンをクリックすると、新規ジオカタログを作れます。編集や更新のため既存のジオカタログを選択すると、最後にジオカタログが作成された時の状態で<ジオカタログ>ウィンドウにある3つのリストに情報が表示されます。TNTmips で作成されたジオカタログの拡張子は、*.gsc です。



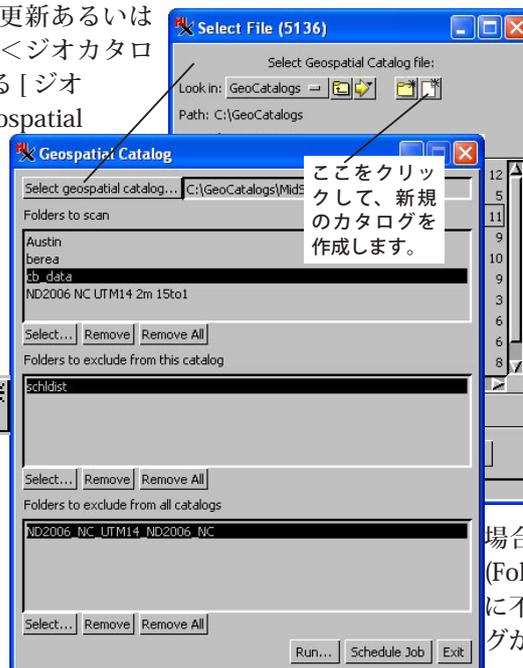
スキャンするフォルダ

[スキャンするフォルダ (Folders to scan)] リスト中の [選択 (Select)] ボタンをクリックして、ジオカタログを作成したい地理データが入ったフォルダを選びます。地理データをどのようにジオカタログ化するかはユーザ次第です。全ての地理データを1つのジオカタログに入れたい場合もあるでしょうし、様々なプロジェクト、世界中の異なる国々、様々なカテゴリー (例: 農地、荒野、都市、地質、等級づけられた情報、など)

によってそれぞれ別のジオカタログを作成したい場合もあるでしょう。地理データの組織的な使用において、同じデータを複数のジオカタログに含めることも可能です。

ジオカタログ作成のためにスキャンするフォルダを選ぶと、選択したフォルダ内の全てのファイルとサブフォルダがスキャンされます。下図のように除外リストに載せれば、特定のサブフォルダを除外することもできます。同様に、除外されたフォルダ内のサブフォルダもここで選択すれば、スキャンリストに加えることができます。このスキャン操作では、地理データファイルやオブジェクトタイプ、有効なジオレファレンス情報を検索します。有効なジオレファレンス情報を持ったファイルやオブジェクトタイプが選択したフォルダ内に見つかり、ファイルやオブジェクトの名前および他の多数のパラメータが *.gsc ファイルに記録されます。

[スキャンするフォルダ] リストの下にある [削除 (Remove)] ボタンは、反転表示したフォルダをリストから削除し、[全て削除 (Remove All)] ボタンは、リスト内のすべてのフォルダを削除します。



このジオカタログから除外するフォルダ

スキャン用に選択したフォルダ内のファイルのみがスキャンされ、ジオカタログに含まれます。しかしながら、選択したフォルダには、作成するジオカタログに含みたくない内容を持つものも含まれることがあります。ここではスキャン用に選択したフォルダのうち、ジオカタログに含みたくない内容を持つフォルダのみを選択しなければなりません。例えば、州や地方に関するフォルダで、その下の郡や地区のフォルダを全て含んだものがあります。作成するジオカタログの目的としては、南西部の郡や地方またはある特定の川を含む地域だけを含めたいとします。その場合は、[このジオカタログから除外するフォルダ (Folders to exclude from this catalog)] リストに不要なサブフォルダを加えることで、ジオカタログから除外できます。

全カタログから除外するフォルダ

このリストにあるフォルダは、geocatexclude という名前のファイルデータをデータファイルのあるフォルダに置くことで全カタログから除外します。この空のファイル (geocatexclude) があることで、現在作成しているカタログにおいて [全カタログから除外するフォルダ (Folders to exclude from all catalogs)] リストにフォルダがあるないに関わらず、フォルダの内容がジオカタログ作成のためにスキャンされることがないようにします。geocatexclude ファイルは、カタログ作成または更新時にフォルダを除外するために選択した場合、ジオカタログマネージャによって作成されます。もしくは手動で作成し、カタログに含めたくない内容を持つフォルダがあるディレクトリレベルに置くこともできます。

全てのカタログから除外したいと思われるフォルダの例としては、TNT タイルセットとして全ての GeoTIFF または

GeoJP2 タイルを含むフォルダが挙げられます (詳しくは、テクニカルガイドの「モザイク：タイルセットに直接モザイクする (Mosaic: Mosaic Directly to TNT Tileset)」を参照)。TNT タイルセットのラスタオブジェクトは全タイルの範囲を特定し、ジオレファレンスされたタイルのファイルを含むサブフォルダの外にあります (?). この1つのタイルセットのラスタオブジェクトをカタログに含めるだけで、タイルセットの全範囲を選択できます。タイルセットを構成する何十万ものジオレファレンスされたファイルを含める必要はありません。

全てのタイルセットが、「モザイク」または「タイルセットの作成」処理において指定されたタイルのセルサイズで決められた範囲のタイルから構成されているわけではありません。インポート処理では、インポートされる各オブジェクトを1つのタイルとして扱うマルチファイルのラスタオブジェクトを作成できます。これらのタイルは、地図の図郭や地理的に定義された単位を表すもので、同じサイズのセルで構成されているとは限りません。マルチファイルのラスタオブジェクトの構造は、ある1つのラスタオブジェクトに関連したタイルセットの構造に似ています。ラスタオブジェクトは、ジオレファレンス付のタイルファイルを含むフォルダより上にあるディレクトリレベルのタイル全部、全範囲を特定します。マルチファイルラスタオブジェクト全体だけでなく、マルチファイルラスタを構成している個々の地図図郭が選択できるように、これら全てのタイルをカタログ作成処理の際に含めたい場合があると思います。個々のタイルファイルをカタログに含めることが意味があるか見極めなければいけません。さもなければ、目的のオブジェクトやファ



イルを見つけ難くなって何の利点もないことになりかねません。

1つのカタログに含まれる他の全情報 (例えば、オブジェクトタイプと形式、スキャンするフォルダ) は *.gsc ファイルに含まれ、カタログの保存先として選んだ場所に保存されます。全 *.gsc ファイルをまとめて1つのフォルダに置いて、カタログに示されたデータと同じフォルダに *.gsc ファイルを置いて、あるいは他の場所に保存してもかまいません。しかし、全ジオカタログから除外するフォルダを示す geocatexclude ファイルは、ジオカタログマネージャもしくはユーザによって除外対象のフォルダ内に置かれます。このファイルがあることで、今のカタログに対して [全カタログから除外するフォルダ] リストに加えられているかどうかに関わらず、フォルダの内容が全ジオカタログから除外されるべきということがジオカタログマネージャに伝わります。新規に作成したカタログにこのフォルダの内容を含めるとした場合は、そのフォルダから geocatexclude ファイルを削除する必要があります。

手動でカタログを更新する

新規ファイルまたはフォルダを前にカタログ化されたフォルダに追加する場合、既存のカタログを更新しても、新規にカタログを作成して新しいファイルを含めてもかまいません。既存のカタログを更新するには [ジオカタログの選択 (Select geospatial catalog)] ボタンをクリックして、更新したいカタログを選びます。最後にカタログが作成された際に含められ、もしくは除外されたフォルダが、<ジオカタログ>ウィンドウに一覧表示されます。更新したジオカタログ用にスキャンしたいフォルダが、初めに選択したものから変わっていない場合は、[OK] ボタンをクリックします。含めたいもしくは除外したいフォルダが別にある場合には、変更を行った後に [OK] ボタンをクリックしてください。修正日がカタログが初めに作成された日より新しくない限り、ジオカタログ更新の間ファイルが再度スキャンされることはありません。

選択したフォルダ内のファイルをカタログ作成時と同じオブジェクトを含む同名のファイルと入れ替えた場合、これらのオブジェクトを使用するのにカタログを更新する必要はありません。

カタログの自動更新

ジオカタログは全て、TNTmips DV2010 のジョブ処理を使って希望通りのスケジュールで自動的に更新するよう設定できます。2010年の開発版を TNTmips 2009 が動作しているコンピュータにインストールします。TNTmips 2009 のユーザであれば、2010年初めに DV2010 が公式リリースされるまで、インストール後30日間実行できます。DV2010のジョブ処理では、指定した間隔でジョブを実行するようにスケジュールできます。DV2010のジオカタログマネージャでは、好きな頻度でカタログを更新できるよう、ジョブをスケジュールできます (全カタログの更新を毎晩行ったり、選択したプロジェクトのカタログだけを1時間毎に更新できます)。